白い花弁の流れる先　39

川鍋さく

黒い指輪

帰り道の途中で
名前のわからない紅色の花弁が
電柱の周りにたくさん散っていた
それで
帰ったら
引越の段ボールに詰めたまま整理せずにいた
形見の品を広げてみようと思った

　その昔
　彼女は魔女だった

　それは
　彼女がときどき
　こっそり耳打ちしてくれた
　とっておきの内緒話

　彼女が魔女だった頃の姿を
　わたしは見たことがないが

　彼女が魔女だった頃の話を
　詳しく聞いたことはないが

どれも綺麗で捨てられずにいた
大量のハンカチを詰めた袋の下から
ジュエリーボックスを引っ張り出す
中に入っているのは
どれもダミーの安いアクセサリー

その中に
子どもの頃から気になっていた
黒い指輪
たしか
どこでいつ頃買ったのか
誰かからのお土産だったか
忘れちゃったと
言っていたものだ

　手を出してごらん

その昔
彼女は魔女だった

その事実を
今日思い出した

人差し指に吸い付く様にはまったこれは
間違いなく
魔女の指輪だ

＊＊ 川鍋のぶつぶつ独り言 ＊＊
朝晩がだいぶ涼しくなってきました。窓を網戸にすると、虫の声もよく聞こえます。今年の夏の酷暑を思うと、なんだか思ったよりも早くしっかり秋を感じられるなぁと、少し意外です。それとも去年もこんな感じだったでしょうか…？
うかうかしているとあっという間に、「今年ももうすぐ終わるね。早いなぁ。」と口にする時期がやってくるのでしょう。一日一日を、できるだけ大切に過ごしたいなと思います。